

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大津行政センターCS	階数	地上3F
建設地	横須賀市大津町3丁目51番6、他4筆	構造	RC造
用途地域	1種住居他1種中高層1種低層、準第	平均居住人員	50人
気候区分		年間使用時間	3,285時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2013年11月5日
敷地面積	2,417 m ²	作成者	(株)大川設計
建築面積	1,115 m ²	確認日	2013年11月6日
延床面積	2,969 m ²	確認者	(株)大川設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
30% 60% 80% 100% 100%超

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 管内地域の行政サービスの拠点であるとともに、自治活動や生涯学習活動などに対して情報や活動の場を提供するコミュニティ支援の拠点として役割を担っていきます。		その他 将来、太陽光パネル(定格出力約20kw)が設置できるよう種載荷重を考慮した設置計画の確保。
Q1 室内環境 2階体育室の床衝撃音による直下階の行政センターへの配慮。 照明は、必要に応じた使い分けが出来る計画とする。 その他、標準的な室内環境づくり。	Q2 サービス性能 建物の内はできる限り見通しを良くした、わかりやすい構成。 機能を満足させると共に、耐久性、更新性に配慮した材料、工法を選択する。 屋上は、一時的な避難場所となり得るよう配慮。	Q3 室外環境(敷地内) 地上部の緑化及び屋上の緑化を計画する。 里山へとひろがる中庭。 自生種を主とした緑地づくり。
LR1 エネルギー 建物の熱負荷を考慮した、複層ガラスの採用。 LED照明器具の採用。 トイレなどには人感センサー採用。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具は節水型で、水栓は自動水栓とする。 再生砕石材等のリサイクル材を用いる。 内装の一部には、県産材を用いる。	LR3 敷地外環境 建物利用者のための駐車場及び駐輪場を確保することにより、利用者の利便性と周辺道路での路上駐車防止を図る計画とする。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される